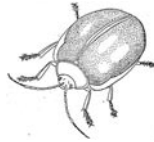


たんぽう



兵庫県宍粟市でコウヤホソハナカミキリを採集

岡田 浩資

筆者は兵庫県で記録が少ないコウヤホソハナカミキリ *Strangalia koyaensis* (Matsushita, 1933) を宍粟市千種町で採集したので報告する。岡山県境に近い道路沿いのリョウブの花をスウィーピングしたところ、ヨツズジハナカミキリ、アカハナカミキリに交じり一頭採集された。



1 ♀ (写真), 兵庫県宍粟市千種町, 13. VIII. 2010, 筆者採集

本種は三木進氏によると、名前の通り高野山をはじめ和歌山県や、芦生原生林など京都府内には盛夏に普通だが、兵庫県内には記録がほとんどないという。

「日本産カミキリムシ大図鑑」(1984年), 「兵庫県のカミキリムシ」(2001年)にも兵庫県内の記録がない。ただし、兵庫県

川西市黒川における1♂の報告(東, 2010)があり、兵庫県の東と西の県境付近で相次いで確認されたことになる。

最後に発表を勧めていただいた三木進氏に厚く御礼申し上げます。

○参考文献

- 日本鞘翅目学会編, 1984. 日本産カミキリムシ大図鑑. 講談社
 大林延夫・新里達也編, 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会
 廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ.
 東 浩司, 2010. 大阪府・兵庫県境付近におけるカミキリムシ数種の記録(続報). 月刊むし, 476: 48.

(Koji OKADA 兵庫県宍粟市山崎町)

ヤマトアオドウガネ神戸市内の記録と近縁種2種の消長

山本 勝也

神戸市版レッドデータブック選定時に候補種に上げられていたものの、過去の記録が見当たらず選定から漏れたと思われる神戸市内のヤマトアオドウガネ *Anomala japonica* Arrow, 1913 の記録をここに書き留める。

- 1♂, 神戸市須磨区須磨寺町, 9.VI.1992, 山本勝也 採集・標本所蔵
 1♀, 神戸市須磨区須磨寺町, VI.2005, 同上
 1♀, 神戸市須磨区関守町, 16.VII.2010, 同上

文献(酒井・藤岡2007)には、近年アオドウガネ *Anomala albopilosa albopilosa* (Hope, 1839) に北上傾向が認められ、近縁種ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* (Hope, 1839) やヤマトアオドウガネを圧倒しつつある、とある。40年ほど前、筆者の住む須磨旧市街地ではこれらの中で、ドウガネブイブイが優先種であったことは子供の頃の記憶にあり、この20~30年余りで神戸市街地ではアオドウガネが多数になりドウガネブイブイが極端に少なくなったように思われる。故高橋寿郎氏も本誌1989年第2号で“戦前アオドウガネを神戸市内でほとんど採集したことがなかったが、この10年位前(1970年代後半~1980年代前半?)から多い印象を受ける”と書いておられる。

ヤマトアオドウガネは筆者の手持ちの標本の中に、1980年代以前の神戸産ラベルは見当たらず、もともと少ないものであったとも伺える。今回示した、近年になって採集された3例の発生地などは特定していない。県内記録に広げると、美方郡浜坂海岸1977年7月23日、筆者採集の標本がある。

文献(酒井・藤岡2007)によるとヤマトアオドウガネは海岸寄りの地域に多い、とあるように、上記三種の間には好む生息環境などに多少の差があることが示されているが、アオドウガネは広食性であるとも書かれており、このような事が他の二種を抑えての分布拡大の要因の一つになっているのかもしれない。

アオドウガネとヤマトアオドウガネは一見、似た種であり、慣れないと即座に同定できない場合もあるが、尾節板の毛の多少などで見分けをつけることができる。(毛の少ないものがヤマトアオドウガネである)本種の市内、県内の記録をお持ちの同好諸氏おられましたらぜひご教示をお願いしたい。

○参考文献

- 酒井 香・藤岡昌介, 2007. 日本産コガネムシ上科図説 第2巻 食葉群I, 47, 48, 52.
 高橋寿郎, 1989. きべりはむし 17(2): 48-49.

(Katsuya YAMAMOTO 神戸市須磨区)